

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 401 回 「観光経済新聞」と「旅行新聞」

2011.01.23

先日の 1 月 21 日（金）、観光経済新聞社が主催する「第 24 回にっぽんの温泉 100 選」「2010 年度人気温泉旅館 250 選」の認定授与式が、東京・浅草ビューホテルで挙行され、招待を受けたので参列した。

溝畑宏観光庁長官、二階俊博衆議院議員（全国旅行業協会会長）はじめ、滝多賀男（日本温泉協会）、佐藤義正（国際観光旅館連盟）、近兼孝休（日本観光旅館連盟）、佐藤信幸（全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会）各会長等、多くの旅館、旅行業、観光関係の人が一堂に集結し、浅草ビューホテルが正に、日本の観光行政、観光業界の縮図となった。

毎年の事だが、これと全く同じ時間帯に、東京新宿・京王プラザホテルで旅行新聞新社が主催する「プロが選ぶ日本のホテル・旅館 100 選」等の表彰式が行なわれる。全国の有名旅館の人は、浅草と新宿を行ったり来たりで、大変忙しい 1 日となる。

「観光経済新聞」と「旅行新聞」は、或る意味、我国観光業界の 2 大業界紙と言っても過言ではない、正に観光業界の、貴重なオピニオンリーダー的存在となっている。

「**観光経済新聞**」は、株式会社観光経済新聞社（代表取締役社長 江口恒明）が週刊している観光・旅行業界の専門新聞。「旅館新聞」を前身としており、創刊 1950 年 4 月 1 日、今年で 61 年目を誇る、業界最古で最大のトップ業界紙である。

全国各地の旅館ホテル、日観連全会員、旅行会社、ネットエージェント、行政、自治体に幅広く読まれて、発行部数 59,000 部、毎月 4 回、毎週土曜日発行している。

「にっぽんの温泉 100 選」「人気温泉旅館ホテル 250 選」などを主催し、上記の通り、今年も浅草ビューホテルで認証式典が開催された。

人気温泉旅館ホテル 250 選に通算 5 回以上入選した宿を「5 つ星の宿」として認定する事業を展開している。なお、「5 つ星の宿」は観光経済新聞社の登録商標である。

（ホームページ：<http://www.kankokeizai.com/>）

一方、「**旅行新聞**」は、株式会社旅行新聞新社（代表取締役 石井貞徳）が旬刊で発行する観光業界全般の総合専門紙。創刊は 1975 年 6 月、今年で 36 年目である。

特に創刊当初から実施している「プロが選ぶ日本のホテル・旅館 100 選」は、今年で 36 回目に当り、一つのステータスになりつつある。これは毎年、全国の旅行会社による投票で選ばれた施設のランキング表彰で、上記の通り今年も京王プラザホテルで開催された。

（ホームページ：<http://www.ryoko-net.co.jp/>）

いずれも観光全般にわたるニュースや提言を行なっているが、「**観光経済新聞**」は、どちらかと言うと旅館業を主体とした宿泊業、観光政策・行政に関する分野が主力と言える。一方の「**旅行新聞**」は旅行業（旅行エージェント）を主体とした記事が多く、両紙創刊当初の思想が受け継がれ、業界新聞としての棲み分けがうまくできていると思われる。

小生の観光関連情報の「ネタ元」はこの両新聞と、観光庁 & JTM のホームページであることをバラしておこう。観光関連業者以外にも今は誰でも、どこでもホームページで情報が取得できる。興味の或る方は是非、ご活用いただきたい。が、実は小生、両社長とも昵懇（じっこん）の間柄にあるゆえ、やっぱり購読してもらうことを勧めておく。